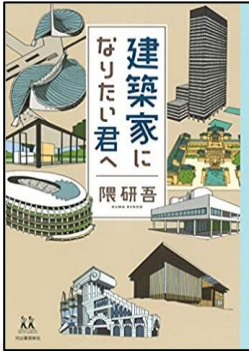


図書館からのお知らせ

金光八尾図書館

令和4年6月29日 第273号

《新着本の紹介》



『建築家になりたい君へ』
隅研吾 河出書房新社



『食品ロスはなぜ減らないのか?』
小林富雄 岩波書店



『夢を叶えるゾウ0』
水野敬也 文響社



『その扉をたたく音』
瀬尾まいこ 評論社



『印象派への招待』
朝日新聞出版



『俳句鑑賞の授業』
夏井いつき PHP 研究社



『世の中は奇跡であふれている』
鳥越規央 WAVE 出版



『世界の国図鑑』
すばる舎



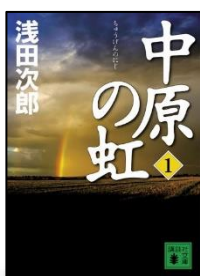
『香君(上・下)』
上橋菜穂子 文藝春秋

TOPICS

図書館の先生より ～私のオススメする本～

* 今月号は図書館と藤田先生から皆さんにおすすめの本をご紹介します。気軽に図書館へどうぞ。

今月の特集



『中原の虹』

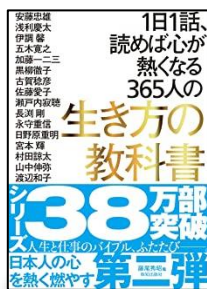
浅田次郎 講談社文庫

「鬼でも仏でもねえ。俺様は、張作霖だ」

「汝、満州の覇者となれ」と予言を受けた貧しき青年、張作霖。のちに満州馬賊の長となるその男は、大いなる国の未来を手に入れるのか。栄華を誇った中国王朝に落日が迫り、新たなる英雄が生まれる。隠された「龍玉」を求めて、壮大な冒険がいま幕を開ける。

前作『蒼穹の昴』の続編で、主人公が『蒼穹の昴』の春児から、兄の春雷へと変わる。同じ時代を全く違う立場で生きた二人。日露戦争後の清国末期、西太后、光緒帝、袁世凱、張作霖などの目を通して、一人一人の強い意志が我々の前に立ち上がってくる。四億の民を、いかにして列強の手から救うのか。光緒帝や梁文秀の行く末、西太后や李鴻章の采配、宣統帝溥儀の登場など、前作からの登場人物達はもちろん、新たな登場人物も入り乱れ、ぐいぐいと作品に引き込まれることは間違いない。今秋には宝塚大劇場で雪組公演「蒼穹の昴」も幕を開ける。ますます目が離せない今作、一読をおすすめしたい。

私の1冊



『1日1話、読めば心が熱くなる』

365人の生き方の教科書

藤尾秀昭 監 致知出版社

(推薦者 藤田先生)

「先生、何かオススメの本はありませんか？」

「国語教師＝読書家」という発想からか、この手の問い合わせは意外と多くあります。その都度、なるべく気に入ってもらえそうな本を紹介しているつもりですが、残念ながらこれまで一度も「先生！この間紹介してもらったアレ、面白かったです！」的なコメントはもらったことはありません。わざわざ言わないだけで読んでくれた人もいるはず…と自分に言い聞かせる一方で、そりゃそうかと妙に納得している自分もいて、なんだか不思議です。

そもそも、なぜ本を読むのでしょうか？私の場合はシンプルに「何かを得たいから」ですね。何でもいいんです。今の自分にはない何かが得られれば。本を読んでいて事後的に感じる良さの一つに「他人の人生や価値観を疑似体験できること」が挙げられますが、それをギュ〜っと凝縮した本があればなあ〜…と思ってたら、あったんです。これが。というわけで、私がオススメする本はこちらです。読んだ人はぜひコメントをいただければ…と思わなくもないのですが、まあ…あまり期待しないでおこうと思います。